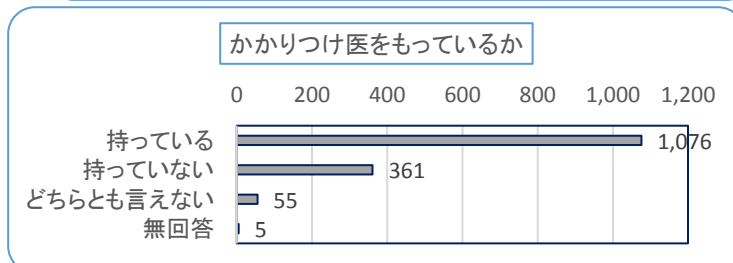


美馬市医師会在宅医療連携拠点事業

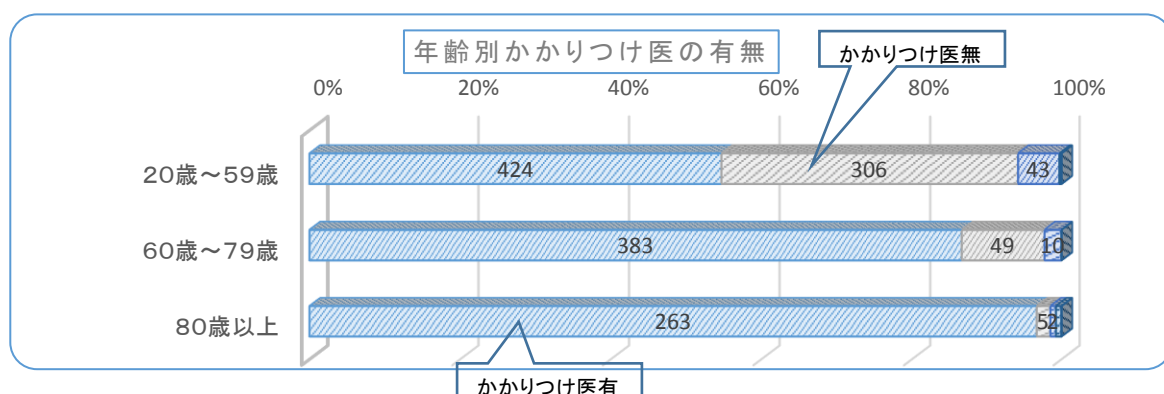


「どちらとも言えない」理由 (n=55)

どちらとも言えない理由	人数	比率
かかりつけ医というほどでもなが、病院に月1回行っている。	1	
あいまいです。行ったり、行かなかったり	1	
療養中	1	
内科の病気がないから整形外科のみ	1	
体調が悪くなれば行く病院が決まっているが、いつもは行かないため	1	
大体同じところに通うが必ずしもそこにかかるというわけではない	1	
色んなところに行っている	1	
記載なし	48	87.30%

※年齢別かかりつけ医の有無

	かかりつけ医有	かかりつけ医無	どちらとも言えない	無回答
20歳～59歳	424	306	43	2
60歳～79歳	383	49	10	0
80歳以上	263	5	2	2

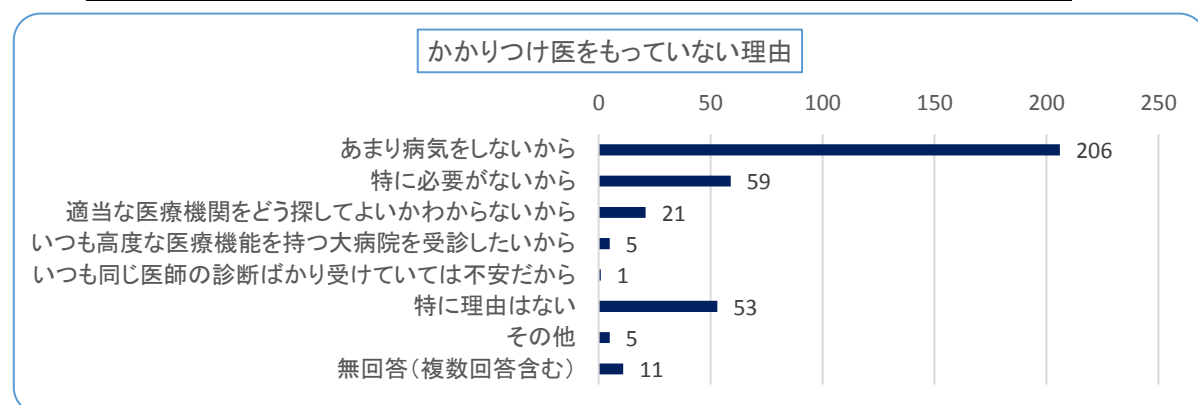


5 かかりつけ医を持っていない理由 (n=361)

かかりつけ医を持っていない理由	人数	比率
あまり病気をしないから	206	57.1%
特に必要がないから	59	16.3%
適当な医療機関をどう探してよいかわからないから	21	5.8%
いつも高度な医療機能を持つ大病院を受診したいから	5	1.4%
いつも同じ医師の診断ばかり受けていては不安だから	1	0.3%
特に理由はない	53	14.7%
その他	5	1.4%
無回答(複数回答含む)	11	3.0%
合 計	361	100.0%

「その他」の記載内容 (n=5)

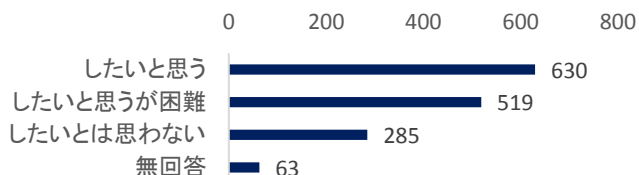
ずっと県外に住んでいたため	1
病状により病院を選んでいる。定期的にかかる病気がないから	1
病状により病院を決めている	1
病院にかかっているが大学病院からこられているので先生がよく変わられるから	1
記載なし	1



6 通院が困難になった時自宅で療養したいですか

通院が困難になった時自宅療養は	人数	比率
したいと思う	630	42.1%
したいと思うが困難	519	34.7%
したいとは思わない	285	19.0%
無回答	63	4.2%
合 計	1,497	100.0%

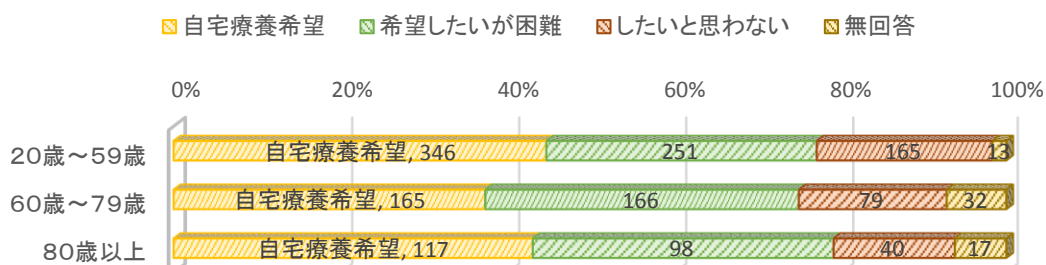
通院が困難時自宅で療養したいか



※年齢別通院困難時の自宅療養希望

	自宅療養希望	希望したいが困難	したいと思わない	無回答
20歳～59歳	346	251	165	13
60歳～79歳	165	166	79	32
80歳以上	117	98	40	17

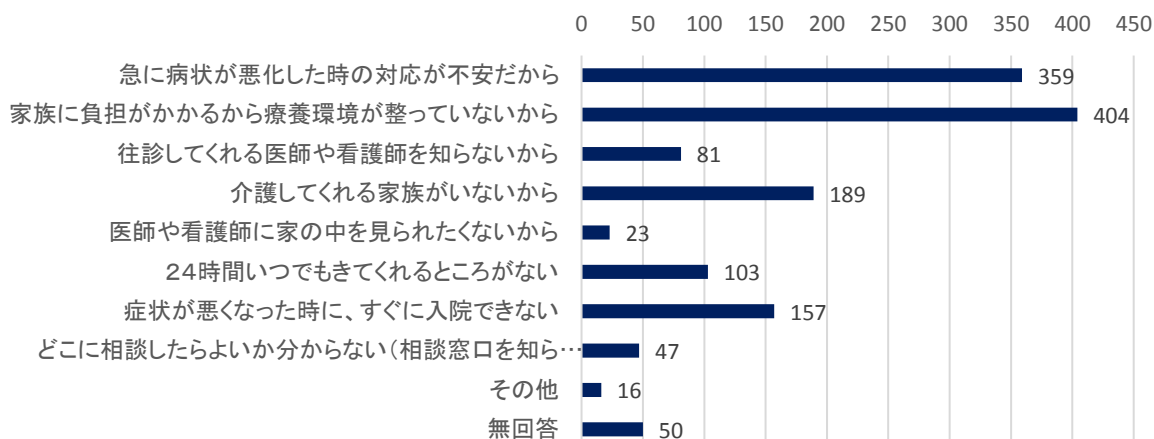
年齢別通院困難時の自宅療養希望



7 「したいと思うが困難」「したいと思わない」の理由(複数回答)n=804

通院困難時「したいと思うが困難」「したいと思わない」理由	人数	比率
急に病状が悪化した時の対応が不安だから	359	25.1%
家族に負担がかかるから療養環境が整っていないから	404	28.3%
往診してくれる医師や看護師を知らないから	81	5.7%
介護してくれる家族がいないから	189	13.2%
医師や看護師に家の中を見られたくないから	23	1.6%
24時間いつでもきてくれるところがない	103	7.2%
症状が悪くなった時に、すぐに入院できない	157	11.0%
どこに相談したらよいか分からない(相談窓口を知らない)	47	3.2%
その他	16	1.1%
無回答	50	3.6%
合 計	1,429	100.0%

通院困難時の自宅で療養困難・したくない理由



「その他」の記載内容(n=13)

かかりつけの医師にまかせている	1
出会いを求めて	1
往診料が高いので自宅療養は無理	1
入院給付金をもらうため	1
その時にならないと分らない	1
家族に迷惑をかけたくない	1
家に介護老人がいるから	1
家族がいるため	1
夫婦が元気であるうちはどちらかが支えられますが一人になると子供に負担をかけたくないと思	1
病気やけがの程度によるが診断が決まってからによる	1
通院の交通が不便	1
ひとり暮らしなので	1
見てくれる家族にも生活があり負担をかけるので	1
現在の家族制度では何をするに付いても難しい	1
世話をしてくれる人が大変だから	1
無記入	1

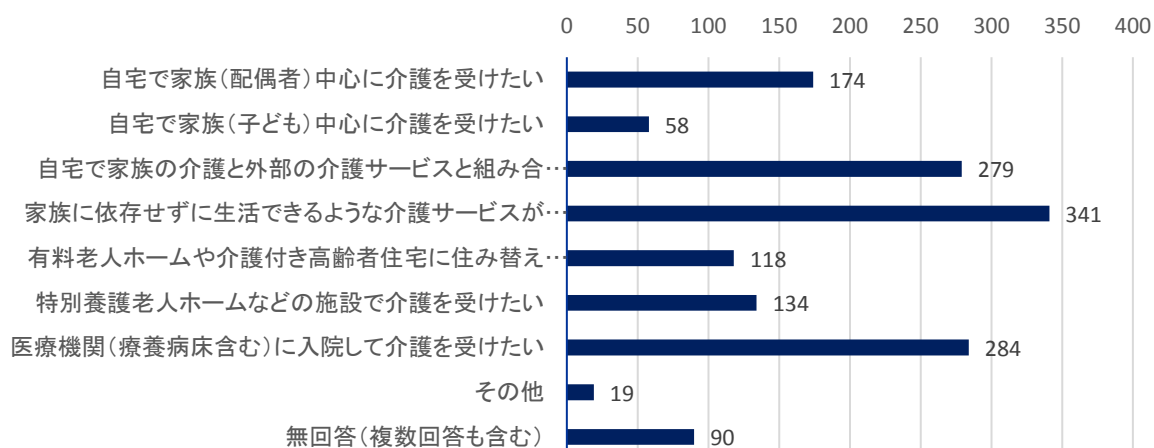
8 長期療養はどこでどのようにしたいか

長期療養はどこでどのようにしたいか	人数	比率
自宅で家族(配偶者)中心に介護を受けたい	174	11.6%
自宅で家族(子ども)中心に介護を受けたい	58	3.9%
自宅で家族の介護と外部の介護サービスと組み合わせて介護を受けたい	279	18.6%
家族に依存せずに生活できるような介護サービスが有れば自宅で介護を受けたい	341	22.8%
有料老人ホームや介護付き高齢者住宅に住み替えて介護を受けたい	118	7.8%
特別養護老人ホームなどの施設で介護を受けたい	134	9.0%
医療機関(療養病床含む)に入院して介護を受けたい	284	19.0%
その他	19	1.3%
無回答(複数回答も含む)	90	6.0%
合 計	1,497	100.0%

「その他」の記載内容(n=19)

家族の世話になるようだったら死を選ぶ!	1
介護なし	1
病気にもよるので、その時にならないとハッキリ分らない	1
家族に依存せずサービスも受けたくない	1
その時の家族構成によるため今はわからない	1
自宅で親にみてもらう	1
子どもがいないから	1
考えていない	1
記載なし	11
57.9%	

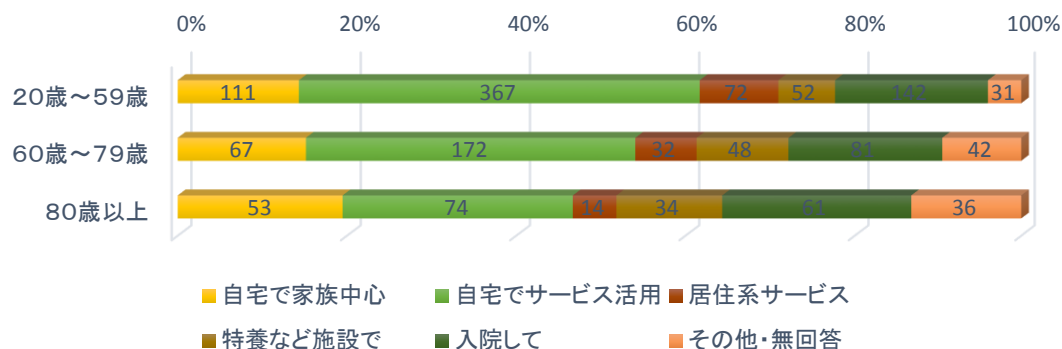
長期療養はどこでどのようにしたいか



※年齢別長期療養時希望場所

	自宅で家族中心	自宅でサービス活用	居住系サービス	特養など施設で	入院して	その他・無回答
20歳～59歳	111	367	72	52	142	31
60歳～79歳	67	172	32	48	81	42
80歳以上	53	74	14	34	61	36

年齢別長期療養時希望場所



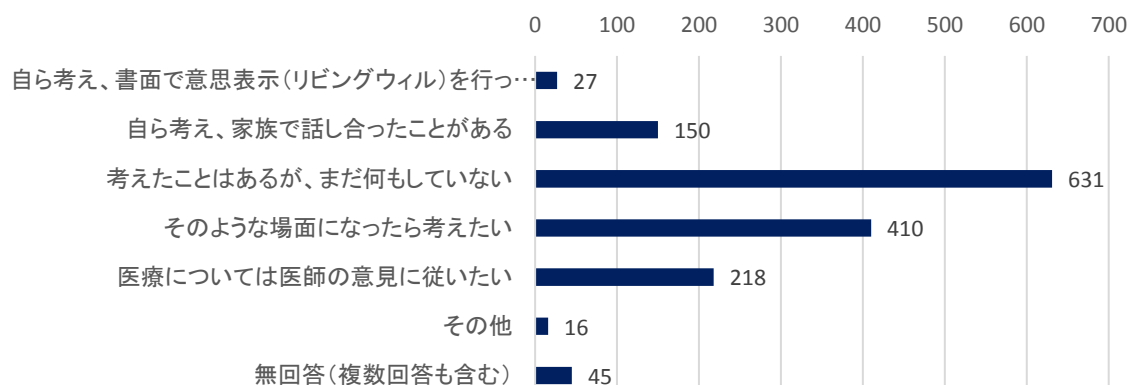
9 終末期の医療の受け方について考えているか

終末期の医療の受け方について考えているか	人数	比率
自ら考え、書面で意思表示(リビングウィル)を行っていい	27	1.8%
自ら考え、家族で話し合ったことがある	150	10.0%
考えたことはあるが、まだ何もしていない	631	42.2%
そのような場面になったら考えたい	410	27.4%
医療については医師の意見に従いたい	218	14.6%
その他	16	1.1%
無回答(複数回答も含む)	45	2.9%
合 計	1,497	100.0%

「その他」の記載内容(n=16)

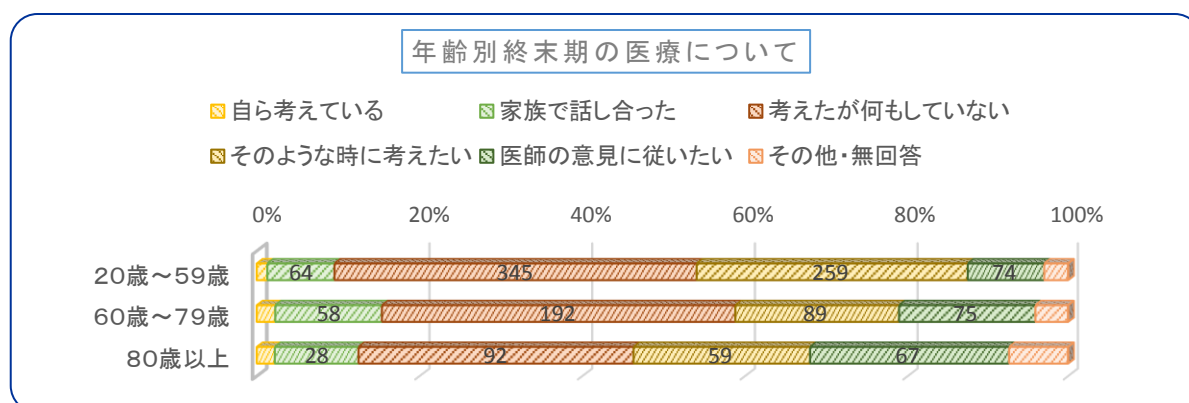
考えたことがない	8	50.0%
記載なし	2	
家族に負担はかけない。	1	
考えたことがないので、今後考えたい	1	
延命治療は7好まない	1	
すでに実行に移し終末期医療の体験あり	1	
家族の意見どおり	1	
まだ何もしていない事は家族が集まって話し合うことが出来ない	1	

終末期の医療について感があるか



※年齢別終末期の医療について考えているか

	自ら考えている	家族で話し合った	考えたが何もしていない	そのような時に考えたい	医師の意見に従いたい	その他・無回答
20歳～59歳	10	64	345	259	74	23
60歳～79歳	10	58	192	89	75	18
80歳以上	6	28	92	59	67	20

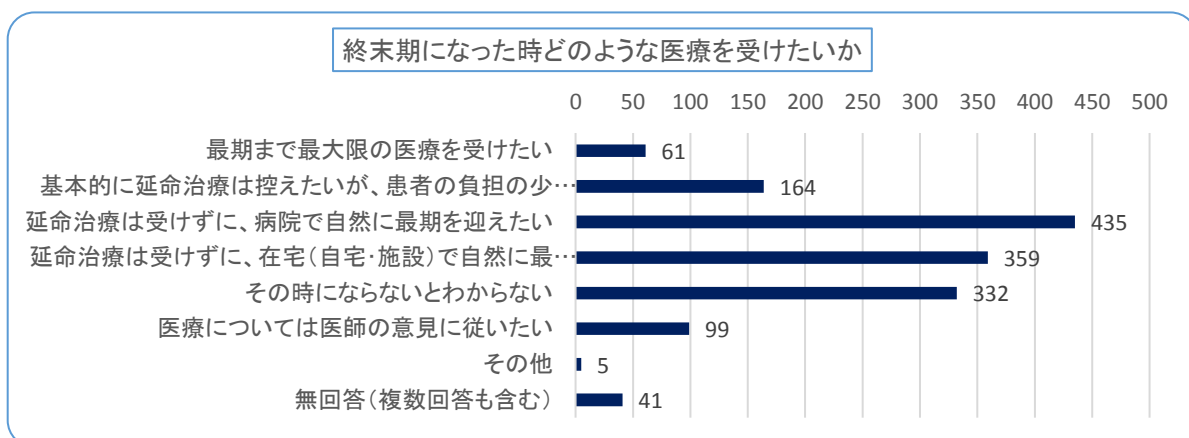


10 終末期になった時の医療は

終末期になった時の医療は	人数	比率
最期まで最大限の医療を受けたい	61	4.1%
基本的に延命治療は控えたいが、患者の負担の少ない治療であれば延命のためであっても受けたい	164	11.0%
延命治療は受けずに、病院で自然に最期を迎えたい	435	29.1%
延命治療は受けずに、在宅(自宅・施設)で自然に最期を迎えたい	359	24.0%
その時にしないとわからない	332	22.2%
医療については医師の意見に従いたい	99	6.6%
その他	5	0.3%
無回答(複数回答も含む)	41	2.7%
合 計	1,496	100.0%

「その他」の理由(n=5)

楽に逝きたい	1
自殺装置を法的に認めて頂き、安楽死したい。	1
家族に負担にならないよう	1
無記入	2

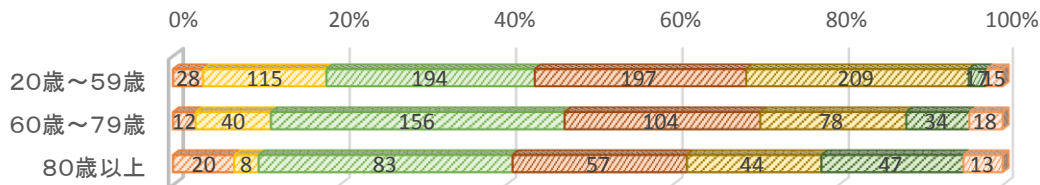


※年齢別終末期医療の受け方

	最期まで最大限の医療を	負担が少なければ延命治療を受けたい	病院で自然に最期を迎えたい	自宅や施設で自然に最期を迎えたい	その時にしないとわからない	医師の意見に従いたい	その他・無回答
20歳～59歳	28	115	194	197	209	17	15
60歳～79歳	12	40	156	104	78	34	18
80歳以上	20	8	83	57	44	47	13

年齢別終末期医療の受け方

- 最後まで最大限の医療を
- 病院で自然に最期を迎えたい
- その時にならないとわからない
- その他・無回答
- 負担が少なければ延命治療を受けたい
- 自宅や施設で自然に最期を
- 医師の意見に従いたい



11 在宅医療についてご意見、ご感想

在宅医療をうけたい、そのためにはこうありたい、こうしてほしい

サービスを上手に使いたい、医療の向上を、専門性の職種を豊富に、不安ですが、家の改修も負担、検死は受けたくない

自宅にいる方が心穏やかにいられるし、他人に気を使うこともない。今までの看取りの経験から

在宅医療に賛成します

往診、ヘルパーに来てもらえるとうれしい

医師・看護師さんがきてくれるとうれしい

最後まで家族と一緒にいたい。

現在施設にお世話になって通院もできているが、最期は自宅に帰れたら帰りたいという希望もある。

現在寝たきりで、在宅介護をうけています。お医者さんには1～2か月おきに介護タクシーを利用して、通院できていますが、風邪をひいた時など、自宅に往診に来てくれるお医者さんがいたらいいと思っています。

年金の収入に限られた金額なので、自宅で負担のかからない治療を受けたいと考えている。いつもいい方向に物事を考えるようにして体調管理に気をつけている。その時にならないとまだ実感が感じられない。お金がかかるのが一番心配。

人員不足（ナース）等により思った在宅医療が受けられない。

電動ベッドや車いす、その他介護や生活に使う用具を借りれる所が身近にあったらいいと思う。

人は「死にかた」を忘れてしまった。「生きかた」ばかりではイカン！いさぎよく、迷惑かけずに死ぬのも大切なのでは…。寝たきりで、生きとって、どうするんなら！

在宅で訪問診療を受け、最後まで療養できることを多くの人に知ってもらいできる限り支援を受けるようになったらと思います。

特にないですが在宅医療の発展を願っています。

県中央部は病院も多く、いろいろな職種の方がたくさんいるが、県西部は拠点となる病院も少なく、医療のレベルも違うような印象を受けます。県西部にもたくさんの専門性を持った職種の方がいるようになればよいと思います。

いつかは来ることでありますがベッドなどが手軽に借りることが出来るかどかなどいろいろ考えます。

在宅医療は個人の思い周囲によって多種多様に変化する可能性があると思う。その人らしいQOLをどう得るかによってその後の生活がどう過ぎていくのかを手助けするために医療の向上はもっと必要なのではと思う。

在宅医療には限界があり、病状により考えます。出来るだけ在宅医療が良いが手遅れにならぬ様にする。終末期と分れば自分でできることを何か考えます。自分で出来ないことがあれば誰かに依頼します。

在宅医療の充実と、利用する時の手続きが簡単で気軽に出来て相談しやすい様にしてほしい。

家にいれるのが一番いいとは思いますが、不安が大きいと思う。

訪問看護・訪問リハビリなど、これからも継続していただければよいと思います。

上記のとおり、終末期には在宅で過ごしたいと思うが、家族への負担がかからないかに不安がある。訪問看護・介護体制の強化・充実を図ってほしい。

在宅医療を受ける際、家人の精神的フォローがかなり重要と思う。在宅医療の一番は信頼関係。

在宅医療を希望するが、本人・家族等の心身共に不安を取り除けるサポートが、医療機関を中心とした社会全体でできれば最高だと思う。

しっかりとした基礎構築を進めていく必要がある。

家族の負担は大変後思うが、自分の好きな場所、落ち着く家で治療できるのは幸せなことだと思います。

治療の改善見込みが得られない病気については、延命治療の必要がないと思う。生き延びるのも本人にとって苦しいし、望みはない。早く迎えてほしいと思う。ドクターの家族に対するインフォームドコンセントの必要があり納得のいく説明自宅において、病状により緩和ケアが受けれるのであれば、医師から本院や家族に伝えてほしいです

在宅における終末期医療が本来の人の姿（自然）であるため、できる限り在宅医療を受けたいと思っている。しかし、往診して頂ける医師等の不足により、入院を余儀なくされるのではないかと。父親の最期も自宅で臨終のためできれば、それを望むところである。

妻と協力して医師の往診や訪問介護を受けながら両親の最後をみつたが、両親の喜んでくれ私たちも満足している。
カウンセラーにいろいろ話をきいてもらいたい。
本人の自分も大変だと思うのでなるべく家に近い形のホームを身近に作ればいいと思う
生まれ育ち住み慣れた家で生涯を終えたい、できれば家族と共に…というのが本音ではないだろうか。しかし、医療費の問題
往診できる体制が市内の病院に出来たら良いと思う
在宅医療が一番望ましいが最後は医師と相談して決めたい
できるだけ家でヘルパーさんをお願いし病院の先生のご指導を受けたいと思います。
在宅医療を継続中、土日で医師の不在の際に休止した場合の対応方法について知っておきたいと思います。特に検死を受けるかどうかについて法律上の理解を深めたいと思います。
終末期にて医師が24時間待機しているかが心配
診療所の先生に時々見てもらえばよい。
家族・家内の負担にならない範囲で
在宅医療に関わってくれる人たちが心から(ビジネス的にならないで)誠実な気持ちで取り組んでくれるような世になったらと思う。安心してお世話になることができるようお願いしたい。
在宅で生活できるような体制づくりが必要。
往診治療をしてくれる病院を増やして欲しい(往診専門の医院の設置)
在宅で療養したいと思う人は多いと思うがどのようなサービスを受けたいのかわからない人が多いと思う。気軽に相談できるような窓口があればいいと思います
本人が家族の事を思い、病状が悪化した時急に施設入所を希望しましたがシュートステイしか利用出来るところしかなく申し込みもするが最後病院でなくなった 経験があります。本人はきっと施設など入りたくはなかったとは思いますが…。少し心残りです。しかし、利用することなくかかりつけ医の往診とヘルパーの利用のみで在宅で過ごす事も出来て喜んでいました。
食事を作ってほしい
なるべく自宅にいたいです、家族で介護してくれる人がいない。費用などがよくわからない。制度もよく変わるのでどうしていいかわからない。
同居の家族がいないので無理と思うが24時間体制で来てもらえるヘルパーさんがいれば在宅を望む
在宅で医療が受けられるのであればそれがそれに越したことはないと思う
主治医、ケアマネ等、多職種の連携が大切
状態によれば在宅酸素やベッドなどにすぐ電話しても対応できたらいいなあとと思います。今回ひいばあちゃんが亡くなり亡くなってもすぐに電話したら取りにきてくれたらいいと思います。
これからは在宅医療と在宅介護が連携し、地域の方々と地域で終末まで過ごせたら本当にすばらしい一生であるかと思ひます
住み慣れた地域で不安なく安心して生活出来る様な美馬市政を行って頂きたい。
自分の家で死にたいと思います
家族の理解とともに地域で見守るシステム・人づくりを構築する必要があると思います。一昔前は、在宅医療が普通だったので昔の仕組みも参考することも大事
御本人の希望する事を第一に考え、本人や家族の方に負担のかからない様にできる限り在宅で過ごすことができるように様々なサービスや制度がつながるようになっていかなければならない。
自宅に勝る所はない
往診をお願いしたい

在宅医療は難しい

家族の負担、経済的、かかりつけ医？自分の一存では、病院で死にたい、資金も気になる

病院から遠いところでは先生は往診に来てくださらないのでは

不便な所では病院から自動車で30分係る、在宅医療は難しいのでは

難しい

在宅が理想ですが年金、介護保険、国の保障等の考えてほしい

現在の若い人は何を考えているのか私にはわからない。例えば家を継ぐにしても税金の問題端的に言えば税金を払うのであればその家は捨てて新しい家を又自分に合う家を建てればよいといった感じ。昔の教育勅語の様な指導が欲しい。朝会っても無口。おはようの挨拶は年に数回。

超高齢化が進む中で若い人たちに迷惑をかけたくないと思うが一番。自分が義母をデイケアや訪問診療や訪問看護に支えながら看取ったことで、義母本人はもちろん義姉たちにも喜んでもらった経験上、できるだけその体制ができればと思うが、果たしてこの美馬市やつるぎ町でどこまでできるものであろうかと不安に思う。

まだまだ情報が少なく、考える機会がないのが現状。それぞれが何かの機会にリビングウィルなどについて考えればよいと思う。現実とはなかなか難しい

家族がいないので介護が必要になったら病院にいきたい

出来るだけ在宅医療で十分な治療を受けたいと思いますが、体力が続かなくなれば病院で世話になりたいです

現在、自宅で安心して生活しようと思える程、サービス等が充実しておらず、在宅生活医療は厳しいと思う。

急病の対応が不安

できるだけ費用のかからないよう医療したいと思います

家族の負担が大きい。外部の介護サービスを受けるのも、家の中を見られるのがちょっと嫌。そのためには家の中の片付けをしないといけない

一人暮らしなので入院希望
環境的に不便なところにあるため難しい。娘もいるけど、その時になってみないとわからない。なるべく、病院でお世話になり、最期を迎えたい。施設等はまだわからない。
家族の世話になっているが、負担はかけないように病院に入り、最期を迎えたい。
希望は(家にいての医療)あるけど、環境面においてとなれば仕方ないところです。
3か月で退院しなければいけないことに不安を感じる(1人身だと特に)
医師と家族の意見に従う。
延命はしてほしくない。自宅でみてほしいが、みてもらえないとわかっている。
希望としては在宅での終末期を迎えることであるが、それにも限界があると思う。その時点で家族、医療関係者と相談。
在宅医療を希望するが、家族への負担を考えると、実行に移すのは現実的でないと感じる。親については自宅で看とりたいという気持ちはあるが、長期になるとやはり自分自身が負担に感じると思うので、使用できるサービスなどをよく知っておきたいと思う。
いくらほ程費用がかかるのかが、わかっていないので、答えにくい点もありました。
在宅医療は介護する側も、される側も精神的ケアが必要だと思う。お金のない人は十分なサービスが受けられず、暗間に入るばかり。定期的にお互いがリフレッシュできるイベントやサービスが安く提供できたら、いいと思う。
かかりつけ医を推奨しているようですが、それならば、開業医の質を向上させるのが先ではないでしょうか。現状では非常に不安です。
家族のいる者とそうでない者で、医療の受け方が全く違ってくると思います。単身者としては、介護が必要な状態の場合、入院して治療が受けられると安心です。
在宅治療が理想であるが、どうしても家族の負担の大きさを思うと、病院などということになると思います。
在宅医療をすると家族に迷惑がかかるので、よくないと思います。
山間部では往診してくれる医師もいないし無理では？一人暮らしや高齢者世帯が多く介護できる人も少ない。
医療機関についてお世話になっている
家では無理病院で死にたい、延命治療はしたくない
在宅医療をしたいと思いますが一人なのでむづかしいと思います
むづかしいと思う
在宅医療はむづかしい
現実的にはあまり考えられない。資金も気になる。(施設)
自身は家族に負担はかけてくれないから在宅はいやですが、家族が病気になったら在宅での医療を受けたいと思います。
在宅でそうなる場合、家族の負担は嫌
今は夫がいます。お互いに介護ができますのが一人になった時、在宅でどの程度やっていけるか不安です
最期真で自宅でいたいが、おそらく病院に送られるだろう
救急で入院しても自宅で介護困難になる方が多く、病院に入院しても引き取りは難しいと思う。
在宅は家族に対して迷惑を考えてしまう。
限界があうと思う。(医療行為を受けるときに、自分の死は何歳で迎えるかはわからないので、家で死を迎えられることはベストであると思う。)
在宅で医療を受けるには家族に相当な負担をかける事となり介護する側、される側がお互いに理解したうえでなければならたない。
最近は無理である。家族が困るようにはしたくない。人が足りないのでは。
家族にたよれない。
家族に負担がかかる
在宅医療は、現在父が在宅介護医療として3年目に突入している。家族の負担は本当に大変な状態である。家族の協力がなければ在宅は無理である。在宅医療は現在のサービスでは不十分であり、一人父の介護をしくれる母がいるためにどうにかできている。しかし母が倒れたら在宅介護・医療は無理。在宅医療も自分の資金がなければ受け入れもできない。現在の在宅介護・医療では自己資金のあるなしで大きく左右する。介護・医療の行為は命をつなぐ大切なものであるはずが現在の制度では本当に命を大切にしようとしているように思えない。
高度な医療を受けることができる病院と地域の診療所がどう連携しているのか情報が少ないと思う
難しい問題であるかと思います。
延命治療は受けず苦しめないような処置を受けたい
その家庭によって異なるので意見に差があると思うので一言では言えませんが、若者と老人では考え方が違うと思うし病気がちの人と健康な人とはまた異なるので非常に難しい問題だと思います。
僻地では在宅を希望しても医療サービスが十分受けられないこと、仕事がなく、子供が遠隔地のため在宅での生活が困難となるケースが多い。在宅での受け皿を充実しなければならないと思う。
在宅医療は家族の負担が非常に大きくなる。負担を軽減する施策の充実をしてほしい。
在宅では介護ベッドなど必要なものや家の改築なども必要だと思うので、どうしても負担を考えようとは思わない。
在宅医療は24時間誰かがいてくれるわけでもないし、急になくなってしまった時のことを考えると不安があるのが本音です。お医者さんや看護師さんに看取られながら最後を迎えたいです。在宅医療について考える機会を与えてくれた当アンケートは大変よかったです。奮闘されている医療従事者の皆様には本当に頭の下がる思いです。ありがとうございました。
過度な医療は本人の身体家族の生活に負担に思う
心配事など気になることをすぐに対応してくれるのかな
施設に入るのがすぐには入れないので入れるようにしていただきたい

長期療養が必要になった場合家で療養したいけど息子達が同居していないため無理と思う子供たちに迷惑をかけたくないと思う
余り長いこと思わずに2週間以内でこの世を去りたい
出来るだけ家族に迷惑をかけたくない
できるだけ家族に迷惑をかけたくない
在宅医療は考えないし考えようとも思っていない
施設準備が整ってない上、介護してくれる者がいないのでひとりでそうなった時は非常に無理が生じる。やはり完備されたところで終わりたい。根本は家族の中だと思うが。
難しい問題だとは思うけど楽しくおだやかな人生で最後は無理のない医療で苦しまずに家族に迷惑をかけずコロリと逝けたらと思う。
現状は難しいと思います
問7での理由にあるように「在宅で療養したい」気持ちはもっているが急変時の対応やその時々症状に対応できる医療機関がないため、現状では自宅での療養は難しいのではないかと考える。また、「自宅で介護してくれる人がいない」というのも大きな理由であり、それは田舎で生活する方の大きな課題でもあるのではないだろうか。
家族の負担にならないようにしたい。現在の時点では4、存在は無理な様子。今後は不明
延命治療は必要ない
実際は難しいと思います
今は子供が県外で勤めていますので出来ないと思います
個人的に在宅医療が理想的であるが現実問題として医療制度在宅時にかかる費用等を考えると難しいと思う
できるだけ費用のかからないよう医療したいと思います
家族の負担が大きい。外部の介護サービスを受けるのも、家の中を見られるのがちょっと嫌。そのためには家の中の片付けをしないといけない
病気になったら家族の負担がかかるため入院、施設を入所する方針
特別老人ホームみたいな負担の少ない施設を多く作って欲しい。家族の金銭的な負担の少ないところ
介護保険制度が敷かれた以後職員不足で本当のところ、時間的に間に合わず少子高齢化の進む明日を思い煩う今日です。介護予防と介護保険制度で元気な時から自立できるような制度にして欲しい。
最期まで在宅で自分らしさを保ってと思っても、主介護者、訪問診療を行う医師が整っていれば安心して在宅の生活を送れると思うが、整っていないのでは、24時間対応できる医療、自宅で看取りができる環境。

このアンケートを契機に考えたい 健康でいたい

本人がいつまでも元気であるとは限らない。いつどのようになるかわからないのでその時に慌てずに考えてみたいと思う。
今は元気なので、まだはっきり言えないことがあるが、これからはそういうことも考えにいられておく。延命治療は保険証にしないことを示している。
今後、知識をつけて理解していきたいです。
今回のアンケートに参加して改めて考えさせられました
どうなるにせよ家族の負担にならないようにしたい

今は考えられない、わからない 在宅医療って何？

介護する側での考えはあるが、介護される側ではまだ考えたことがない。ある程度の考えは必要と思うが、具体的にはその時々でないと環境が変わってくるのでその場で考えるようになる。職場・近所・親戚の協力が必要
希望的には在宅医療が良いと思うが家族との問題等もありこの講座にて勉強したい。(フォーラム参加者)
30～40代の若い年齢にも在宅医療についての知識を普及していくことがありと感じました。そうすれば将来両親の介護が必要になった時等スムーズに対応できると思います。
そのときに合致す
体が働くうちは家にいる。またその時考える
無病息災死なばこつとりを望んでいます・
最低限生活保護者よりましな医療を受けたいと思います。60歳以下の生活保護制度はすぐに廃止すべき
在宅でお年寄りが生活できるのがベストであるが、なかなかそれを受け入れるだけの理解がない。もっと在宅医療が分かりやすく一般の人に伝えられるようなこのような機会を多く設けて欲しいと希望します。
今回の会長報告で、現在から今後に向けての地域内の人口推移、病院の需要予測等の説明を受け、高齢社会の問題点・課題について理解できた。(病院が連携して取り組みも行っていることも分かりました)ありがとうございました。今後はこのような活動を通じてより多くの方に現状を理解してもらうことも大切であると思います。頑張ってください。
在宅医療の仕組みがわからない
あまり考えていない。
現在はまだ考えたことはない。また、家族と相談します。
在宅医療についてもっとお知らせを充実した方がいいと思います。
在宅医療が必要な患者さんが入院中の場合、何ヶ月後かの退院を見越してサービスを行って欲しい。例えば3ヶ月後に退院が決まり、その間で外泊をした場合、どこまでサービスが受けられるのだろうか。
元気で動ける間は在宅で一人暮らしを続けたいと思っている。
現在は定期的通院もでき、心身安定しているので特になし。

現時点でははっきりわからない

在宅医療はよく聞く話なのでよく理解していますが、在宅医療とはかかりつけ医に通院することを言うのでしょうか？それとも、通院すらすることなく在宅で医療行為が受けられるという意味でしょうか？

私たちの年代は親や夫を看取って・・・との考え方の人が多いと思います。そのためには心身ともに元気でいなければと願っていますが老老介護、認認介護にならないためにどうすればいいか日々不安との戦いです。